

A

Q. 春に池や水路で見つかる、ヤマアカガエルの卵。やがてオタマジャクシが生まれ、  
どんどん成長していきます。卵からカエルの形に育つまで、どれくらいかかるでしょう？

- ① 15日      ② 30日      ③ 60日      ④ 90日

【こたえ】③60日

春から夏に向かって、清里の生き物たちは卵や子どもを産み、命の勢を増していきます。  
ヤマアカガエルもその一つで、メスが一度に産む卵の数は1000~2000個近くとも言われています。  
ふれあいセンターで卵からカエルになるまでを観察したところ、62日でカエルになりました。  
ただ、野外でカエルになれるのはほんの一握りで、卵やオタマジャクシは他の生き物の  
食べ物としても、大事な役割を果たしています。

B

Q. 暖かい季節になり、色々な花が咲いています。  
何色の花があったか、歩きながら3色以上見つけて書いてみましょう！

【こたえ】3色以上見つけられたらOK

春から初夏の清里では、色とりどりの花が森を彩ります。春先のスマレや新緑の頃のツツジ  
など、街中では植えられているような花も自然の中が多く見つけられます。植物たちは目立つ花を  
咲かせ、甘い香りと蜜をつくって虫や鳥を呼び寄せて、花粉を運んでもらっています。きれいな  
花を咲かせることは、次の命をつなぐための精一杯の工夫なのですね。みなさんの家の周りでも  
どんな花が咲いているか探してみてください。清里高原とは違った花が見られるかも知れません。

C

Q. 耳を傾けて、鳥の鳴き声を聴いてみましょう。鳥の鳴き声には、仲間へのメッセージ  
が込められています。その内容として、当てはまらないものを選びましょう。

- ① 敵がきたぞ      ② 一緒に歌おうよ      ③ 自分の縄張りに入らないでよ  
④ 結婚しようよ      ⑤ こっちに集まれ

【こたえ】②一緒に歌おうよ

鳥にとって、鳴き声はとても大切なコミュニケーション手段です。時と場合によって、  
同じ鳥でもいろいろな声で鳴くことで、様々なメッセージを相手に伝えます。

○「さえずり」春から夏にかけて聞こえる鳴き声

③「自分の縄張りに入らないでよ」 ④「結婚しようよ」

おもにオスから、ライバルのオスやメスに向けてのメッセージ

～ウラにつづく～

○「地鳴き」 季節きせつに関係なく、オス・メス共に使う鳴き声なごえ

①「敵てきがきたぞ」⑤「こっあつちに集まれ」

そのほか、色々ないろいろコミュニケーションをする時ときなど

特にシジュウカラなどカラの仲間なかまや、カラスは鳴き声なごえの研究けんきゆうが進すすんでいます。興味きょうみがありましたら、調べてしらみるとなかなか面白おもしろいですよ！

D

Q. 春はるから夏なつへ進すすんでいくほど、変わかってくいく空そら模様もよう。

今日けふ見みつけた雲くもが、どんかたな形かたちをしているか描かいてみましよう！

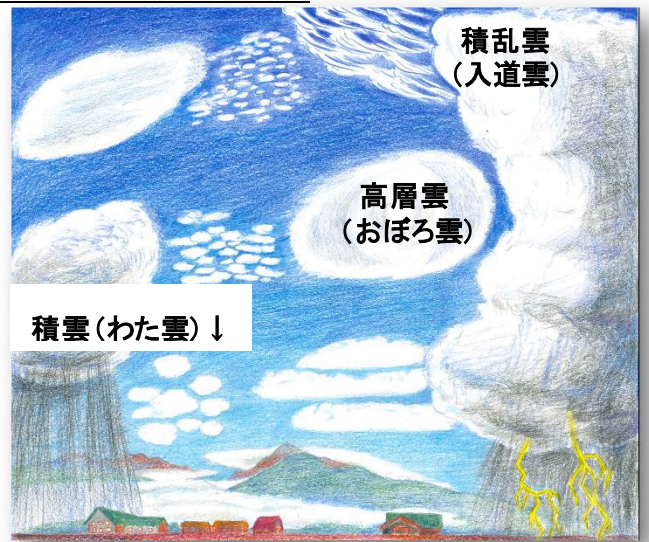
※もし快晴かいせいだったら、見みえている景色けしきで一番いちばん気きに入いったものを描かいてみましよう！

【こたえ】雲くもor快晴かいせいの日ひは気きに入いったものが描かけていればOK

雲くもにはいろいろな種類しゅるいがあり、それぞれ名前なまえがついています。春はるは地上ちじょうちが近くあたたの暖くうきかい空気とと上空じょうくうの冷つめたい空気くうきが混まざることで、様々さまざまな高たかさに雲くもができます。特に、空そらの高たかいところうすで薄うすく広ひろがる高層雲こうそうん(おぼろ雲くも)や、低ひくいところうに浮かぶ積雲せきうん(わた雲くも)を見みられることが多おほいです。

春はるは穏おだやかに浮うかんでいる積雲せきうんですが、夏なつには積雲せきうんがどどんどん成せい長ちようし、やがて積乱雲せきらんうん(入道雲にゅうどうくも)とななって雷雨らいうを降ふらせます。何なに気げなく見みている雲くもも、

その形かたちや種類しゅるいに注ちゆう目もくしてみると、季節きせつの移うつり変かわりをよ読とみ解とくヒントになりますね。



E

Q. 春はるにはたたくさんの生いき物ものたたちが眠ねむりからつぎさめ、次つぎの季き節せつに向むかって元げん気きに動うごき出だします。次つぎのうち、冬とう眠みんから目め覚ざめる生いき物ものは誰だれでしょう？

① ヤマネ

② リス

③ モグラ

④ カエル

⑤ ヘビ

【こたえ】① ヤマネ ④ カエル ⑤ ヘビ

冬ふゆの間あいだでも、リスき(ニホンリス)は木みの実み、モグラつちは土なの中なかのミミズたなどを食かべながら活かつ動どうしています。一方いっぽう、ヤマネかは噛ちむ力ちからが弱よわいのでドングリかたなど硬きい木みの実みが食たべられません。食たべるのは果実かじつや虫むしなど、柔やわらかいもの。冬ふゆにななるとその食たべ物ものはななくなってしまいます。そしてカエルかやヘビへは、哺乳類ほにゅうるいと違ちがって自じ分ぶんでは体たい温おんをあげられない「変温動物へんおんどうぶつ」。周まわりが寒さむくなると、身からだ体たいが冷ひえて動うごけななくなってしまいます。理り由ゆうはそれぞれですが、そんな生いき物ものたちは冬眠とうみんして体たい力りよくをつかわないことで冬ふゆを乗り切きります。暖あたたかくなり食たべ物ものがふ増はえてくる春はるは、冬眠明とうみんあけの生いき物ものにとってご褒美ほうびの季き節せつといえるかも知しれません。